

看護闘争ニュース

NO. 79

2006年 8月10日

東京医労連 宮崎代議員

3.3 山手線宣伝行動などを通じ、確実に若手が成長している。看護師川柳や流行の振り付けなど、新旧30人の楽しい看護闘争委員会になっている。闘いながら若手と世代交代がはかれている。新人を育てることが大切。

10.27 集会では、東京の若い看護師を活用し、楽しい集会にしてほしい。



新潟県医労連 大沼代議員

山口県の2年課程通信制に入学。仕事と学校との両立は大変。実習病院の確保では、通信制への周りの理解が肝心。厳しい中でも、国家試験に70%が合格し、自分も合格した。各地で開校したが、希望者全員の入学には程



遠く、入学金や授業料も高額で、休暇確保も困難。合格後も看護師の新卒と同じ賃金に位置づけられる施設もあり、改善すべき課題は多い。



福岡医労連 甲斐代議員

看護職員の労働実態調査にマスコミが注目。12月に看護師有志20名が呼びかけ、500名の大宣伝行動を実施。当日もマスコミが駆けつけ、RKBが千鳥橋病院の看護師の労働実態を取材した。増員闘争がいま、社会から注目されている。



北海道医労連 奥田代議員

看護現場実態調査を全力で取り組み、1900名以上を集約。道内11万3000人看護体制の実現めざし、道議会に陳情書を提出。議員や議会の反応も、今後の運動の足がかりになるものに変化。全道一斉宣伝では、街頭メガビジョンCMや署名つきポケットティッシュを配布。

ナースウェアでは、健康相談に500名いじょうの市民が応じ、白衣で看護師増員を宣伝。議会請願は6月議会で35市町村が採択した。

国共病組 植木代議員

看護基準1.4対1新設は、我々の運動の反映。配置基準引き上げは、連合会も「経営上メリットがある」と認識し、看護師確保と離職防止が鍵と労使一致。連合会は、離職防止対策として、「月8日以上夜勤をなくすよう努める」と回答した。

宮城県医労連 吉田代議員

1月の県医療研に国立病院の院長も招き「医療を考える」シンポジウムを開催し150名が参加。春のナースウェアは、民医労・県民医連・県医労連の3者が共闘し、運動が広がる中で100名が参加した。



神奈川県医労連 沓名代議員

独法化された横浜市立大学病院では、毎年1割以上が退職し、慢性的看護師不足。昨年、「看護師離職防止アンケート」を実施し8割を回収。中堅では「仕事がきつい。夜勤が多い。仕事の達成感がない」を理由に9割が退職を考え、休暇取得が困難な実態が明らかに。

労働環境を整えることが急務。



神奈川県医労連 植木代議員

職場では日勤が20時、21時まで、準夜も深夜も同様。月8日以内夜勤を守り、増員実現のために患者・国民に訴え看護署名に取り組む。あわせて、看護職員需給見通しの見直しを迫る運動を行なっている。

成果主義賃金では、4月の給与構造改革で1号俸が4分割。医療看護はチームで行うもの。クリニカルラダーでバラバラにされては、医療看護を破壊することになる。撤回に向けた運動を行なっている。

